

目標

令和6年度 富江小学校 学力向上プラン

令和7年度の全国学力・学習状況調査における正答率を、国語・算数全国比100%にする。

授業でこれだけは
授業で自分の考えをもたせ、書いたり表現し合ったりする活動を1回以上入れる。

授業以外でこれだけは
CRT学力検査に向けて、補充の学習（学び直し）を行う。また結果を受けて、さらに補充の学習を行ってから次の学年へとつなぐ。

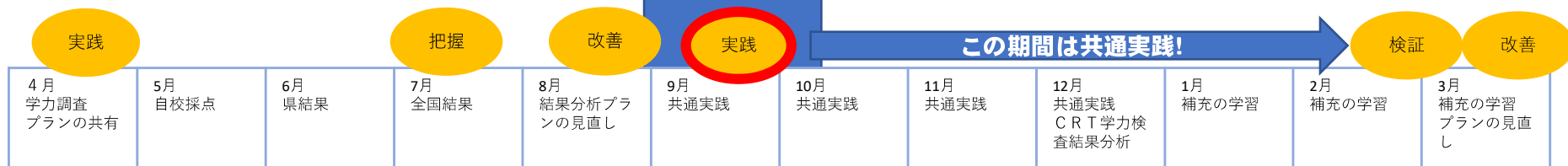
そのために

系統性を踏まえ、全学年で意識し、継続して指導を行う。

そのために

- ・ 題意を捉えさせるために、問題提示場面では、徹底して確認する。
- ・ 短文づくり、言い換え、動作化、写真提示等で、語彙の知識を増やす。あいまいなものをチェックし、調べさせたり示したりする。
- ・ 書き方の指導（考え、感想、理由等）+ 字数制限を伴う書く活動。
- ・ 漢字指導を工夫する。
(毎回の授業で漢字の音読、小テストの実施、練習の仕方の改善)。
- ・ 学び直しの機会の設定し、土台となる基礎（知識・技能）を徹底して理解、定着させる。

- ・ 家庭学習、自主学習の工夫。自己の課題にあったもの。
- ・ 学び直しの機会の設定（スキルタイムの活用）。
- ・ 複数のページにまたぐ問題形式に慣れさせる（解説まで含めてスキルタイムで実施）。
- ・ 過去問に取り組む。
- ・ 単純に解き進められないもの（活用問題）に取り組ませることで、思考力・判断力・表現力等を高める。
- ・ 選書レベルを発達段階にあったものにする（読書）。



特に課題となる領域 全学（国語） 話すこと・聞くこと（正答率44.4%）	特に課題となる領域 全学（算数） 数と計算（正答率53.3%） 図形（正答率46.7%）	特に課題となる領域 県学（国語） 書くこと（正答率27.5%） 読むこと（正答率23.3%）	特に課題となる領域 県学（算数） 数と計算（正答率46.4%） 図形（正答率33.8%）
要因 ・ 目的や意図に応じて、伝え方や書き表し方を工夫することができない。	要因 ・ 知識・技能、数量の感覚が身に付いていないから、図形のイメージをもつことができていない。	要因 ・ 事例をあげて書く、内容の中心を明確にして文章の構成を考えて書く等、書き表し方が理解できていない。 ・ 漢字、言葉等の知識・技能が身に付いていない。	要因 ・ 問題解決に必要な知識を理解していない。 ・ 問題と式、さらには図や表、資料と関連させて、思考することができていない。

【共通課題】

- ・ 記述式が弱い。・ 語彙力の低い（学年レベルに達していない）。
- ・ 問題（文章）の意味を正しく捉えられない。
- ・ 複数の資料のどこを見て解答を進めたらよいか判断できない（資料から読み取れない）
- ・ 既習の理解ができていないものが多い。